

講義名	19 - 物流概論/15 - 物流システム論			授業形態	
担当教員	李 志明	開講期・曜日・時限	後期 水曜日 3時限		
		単位数	2	履修開始年次	1年生

主題と概要

我々の生活には生鮮食品や家電製品など様々なモノが必要である。畑や工場などで生産されたモノが我々の手に届くまでの過程が物流である。物流は、輸送や保管だけではなく、包装、荷役、流通加工、情報の機能も果たしている。
講義では、流通科学大学の大学生として流通における物流やロジスティクスを学ぶときに、是非知っておいてもらいたい基本的事項を概説する。

到達目標

- (1) 流通における物流の6つの機能とその役割を理解する。
- (2) 企業の物流の仕組みと実務を理解する。
- (3) 物流の社会的責任と課題を理解する。

提出課題

・15回の講義のうち、10回の小テストをResponで実施する予定。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

・小テストの際に質問を受け付け、テストの解説と共に質問にフィードバックする。

評価の基準

・小テスト（10点）を10回実施し、100点満点で評価する。
学期中に授業形式が変わる場合でも評価基準は変更しない。

履修にあたっての注意・助言他

- 1. 学問的好奇心をもって、授業中の議論に積極的に参加してほしい。
- 2. 教科書をもって講義を進めるため、基本的にレジュメは配布しない（特別に必要な場合のみ配布）。

教科書

.ロジスティクス概論：基礎から学ぶシステムと経営（増補改訂）.	吉瀬 博仁（著）	白桃書房	4561752257
---------------------------------	----------	------	------------

参考図書

その他

授業計画

1. 物流概論の紹介
2. 周りから見える物流とロジスティクス
3. シンプルで複雑な物流の概念
4. 流通と物流の関係
5. 物流の6つの機能
6. 生活における物流機能
7. 学生と物流事業者
8. 企業における物流とロジスティクスの位置
9. 物流システムの仕組み
10. 在庫管理システムと業務
11. 輸送管理システムと業務
12. 国際化とグローバル・ロジスティクス
13. 3つの物流インフラ
14. 物流と環境問題
15. まとめと物流の再考察

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

この授業科目は2単位であるが、2単位に必要な学修総時間は90時間と定められている。内訳は授業で毎回90分、予習・復習で毎回4時間である。授業中に案内する次回の内容についてネットなどを利用して3時間予習する。そして1時間の復習をする。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

物流は流通の一部であり、物流の基礎知識を身につけ、DPの「流通に関する問題探索と課題提案に貢献できる」ようになる。また、物流の課題を理解することで、DPの「これからの流通の姿の構想に貢献できる」ようになる。さらには、小売業に必要な物流の機能と実務を理解し、就職の際に即戦力になるため、DPの「社会で活躍できる」ようになる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

学生と議論して、考え方を共有する。
Responを用いて、考え方や質問を共有し、教員からフィードバックする。

実務経験の有無及び活用

実務経験あり
物流データ分析や物流政策立案の支援経験がある。民間企業や政府の考え方や仕事のやり方などを伝え、より現実感のある授業を提供する。

備考
